

『笑顔とあいさつがみんなをつなぐ！～心も環境もきれいなまち～』

校長 松本 雅史

放課後子ども教室の前に笹が飾られました。そうです、七夕の笹です。様々な願い事が書かれた短冊がたくさん笹に飾られています。一枚一枚から今の素直な「願い」が伝わってきます。

ところで、七夕伝説といえば、牛飼いと機織り娘の物語ですが、最も古い文献は中国漢の時代、2600年以上前にさかのぼるといいます。

日本では、七夕に雨は忌むべきものですが、隣の韓国では、この日に牽牛と織女が1年ぶりに会ってうれし涙を流すため、その日の晩に雨が降れば、それは2人が流すうれし涙、2日間、夜に雨が続けば別れを惜しむ涙だということです。なるほど、それはそれで深い情愛を感じるではないですか。同じ天候でも、捉え方次第で心豊かになるものです。・・・そんなことを思いました。

さて、6月14日（土）は、こだいら特活の日でした。小中全ての学校が特別活動で土曜公開授業を行いました。そして、この日の午後に小平第六小学校に、小平市内の全小中学校の児童・生徒の代表が集まって「サミット」を行いました。そこでは、「地域のためにできること」をキーワードに、中学校区ごとに取り組み指標を話し合いました。

八小は、地域見守りネットワーク、わんわんパトロール、PTAなど、本当に多くの方々に安心・安全を見守っていただいています。さらに、放課後子ども教室や地域のスポーツチームなど多くの方々の熱い思いや優しさに包まれて成長させていただいています。こうした方々への感謝の思いを何か行動で示せないか、もっともつとこども発案で地域にできることがあるのではないかな…。その取組の指標となる標語を花小金井南中学校区の代表が、真剣に話し合いました。その話し合いの中から生み出された言葉がこれです！

『笑顔とあいさつがみんなをつなぐ！～心も環境もきれいなまち～』

20年以上、こどもたちの登校の安全を見守り続けてくださっている方が、しみじみとお話してくださいました。「こどもたちが、通るときいつも元気に挨拶してくれるんだよ。ここまで休まず続けてこられたのは、それがあったからかな。」「小学生だけじゃないよ、卒業して中学校にいった子も！むしろ中学生が挨拶してくれるかな！」

「挨拶が人と人とを笑顔でつなぐまち！」「環境だけではない、心もきれいなまち！」世代を超えて、みんなが行動し、この言葉のとおりになっていったら…。その輪が花南中校区から小平、そして地球全体へと広がっていったら…。どんなに素晴らしいでしょう。この子たちならできる！いやできるように導くことこそ私たち大人の責務だと強く感じました。

本校は、「夢を描き、追い求め、実現する」がテーマです。「心も環境もきれいなまち」では、誰一人取り残すことなく、どの子どものご家庭も教職員もみんな、「まち」の仲間です。何より自分こそこのまちの一員、まちづくりの主体者です。こどもたちは、本当に素敵な「夢」を言葉にしてくれました。この心を胸に、みんなの力で明るい未来をつくってまいりたいですね。